令和6年度第1回有田市地域公共交通会議議事録

日 時：令和6年6月21日（金）11：00～12：00

場 所：有田市民会館 第1会議室

【出席委員】

田代会長、中井委員、川村委員、大畑委員（城谷代理）、宮崎委員、中井委員、高垣委員（上平代理）、前委員、星加委員（児嶋代理）、城委員、芹川委員（久木原代理）

【欠席委員】

中本委員、北村委員、森下委員、豊田委員、坂前委員、國年委員

【監査委員】

谷中監査委員

【事務局】

宮崎部長、早川理事、山本課長、吉田主任、宮井副主任

【議案】

議案第1号 令和5年度決算の承認について

議案第2号 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について

【その他】

・地域公共交通における最近の動きについて

【議 事】

1. 開会（事務局）

ただいまより、令和6年度第1回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員の皆さまにご出席いただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告いたします。

それではまず始めに本会の会長である田代副市長よりご挨拶よろしく願いたします。

2. 会長挨拶（田代副市長）

本日はお忙しい中、有田市地域公共交通会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

また、委員の皆さまにおかれましては、日ごろよりデマンドバスの運行を始めとする本市の公共交通の維持・発展にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度は皆さまにご協力いただき、これまでの利用状況や地域特性、市内の動向等を踏

まえ路線再編・ダイヤ改正を行いました。また、福祉課の取り組みとして移動困難者へ乗車券の配布も行い、統合された有和中学校生徒の通学利用も含めて、利用者が増加傾向にあると聞いております。

さて、本日は令和5年度決算も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方などについて、活発にご協議していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に会議のスムーズな運営にご協力いただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

3. 委員紹介（事務局）

それでは、令和6年度最初の会議となりますので、委員の皆様方におかれまして、職場の人事異動等により交代された方もいらっしゃると思います。議事に入る前に、事務局より委員の皆様全員をご紹介させていただきます。なお、ご紹介は名簿順でさせていただきますのでご了承ください。

～委員紹介～

委員の皆様におかれましては、今後とも当会議の運営にご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。田代議長よろしくお願いいたします。

4. 議事

（田代議長）

それでは、議事に移らせていただきます。

本日の議事は議案2件でございます。

それでは、議案第1号「令和5年度決算の承認について」を事務局より説明願います。

（事務局）

議案第1号「令和5年度決算の承認について」をご説明させていただきます。

1ページをご覧ください。当会議の令和5年度決算報告になります。

歳入といたしまして、「1.の負担金」について、有田市からの負担金で28万3,644円となっております。「2.の補助金」及び「3.の繰越金」についてはございません。「4. 諸収入」としては、広告料収入及び利息で13万4,896円となっております。

以上、歳入合計で41万8,540円となっております。

続いて、歳出といたしまして、「1. 運営費」の「会議費」で39,000円、「事務費」といたしまして1,650円となっております。「2. 事業費」に関しましては、昨年度行った路線再編・ダイヤ改正の停留所設置工事費やバス停設置購入費の負担で24万3,000円、広告料収入の13万4,890円を事業者の中紀バス様に支出しております。「3. 予備費」はありま

せんでした。

以上、歳出合計で41万8,540円となり、歳入・歳出同額となっております。

2ページには会計監査報告書を付けております。

なお、バス運行に関する国庫補助金は、運行事業者である中紀バス様が直接、国へ申請し、補助金においても直接、中紀バス様に振り込まれるので、それ以外の経費・当会議の運営経費の決算報告ということになります。

参考資料として3ページにデマンドバスの令和5年度収支実績をつけております。

収入につきましては、運賃収入で123万8,400円、国庫補助金が令和5年度分で518万4,000円、有田市からの補助金が518万4,000円となっております。

支出につきましては、運転手の人件費628万2,630円、一般管理費人件費171万7,005円、燃料代207万1,853円、バスの修繕費206万8,870円、車両使用料660万円の合計1千874万358円となり、差し引き713万3,958円の赤字となっております。

先ほど説明しました当会議から支出しています広告料収入につきましては、これ以外の経費、利用促進にかかる経費や事務費に充てられております。

ご質問、ご意見等をいただく前に「要綱第10条第3項」の規定に基づき、2名の監査委員に監査して頂いておりますので、谷中監査委員よりご報告をお願いいたします。

(谷中監査委員)

さきほど、事務局より報告のありました、令和5年度有田市地域公共交通会議の会計を監査したところ、関係帳簿と照合の結果、計数に誤りがなく、正確であると認めます。

(田代議長)

ありがとうございました。監査報告が終わりました。

令和5年度有田市地域公共交通会議の決算について、ご質問、ご意見等ございませんか。

(中井委員)

3ページのデマンドバス実績について、この収支で支出の方が大きくなっているかと思いますが、この負担はどこが負担しているのでしょうか。

(事務局)

こちらの差額については中紀バス様にご負担いただいております。

(田代議長)

他にご質問、ご意見等ございますか。

～質問、意見なし～

(田代議長)

ご異議がないようですので議案第1号「令和5年度決算について」は承認されました。

それでは、引き続き、議案第2号「令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について」を説明願います。

(事務局)

それでは、地域内フィーダー系統確保維持計画の概要から説明いたします。バスの運行経費に対する国庫補助金を活用するためには、本計画を法定協議会である当会議で策定、承認をいただいて、国土交通省に提出しなければなりません。

フィーダー系統とは、バスの停留所、鉄道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統をいいます。

地域間交通ネットワークとは、複数の市町村にまたがる公共交通網のことであり、有田市デマンドバスは、JR箕島駅で鉄道と乗り継ぎできるようにしております。

また、令和7年度の意味ですが、この計画は令和6年10月から令和7年9月までの運行分となっております。国の予算では、令和7年度予算から補助金が支出されるためです。

なお、本計画は以前策定した公共交通計画を本体とし、これまで「生活交通確保維持改善計画」で位置づけられてきました補助系統に関する事項のうち、公共交通計画本体に位置づけられている事項以外については、別紙として申請していくこととなります。

それでは、今回申請する計画の内容について説明いたします。右上に「議案第2号」と記載されている、5ページをご覧ください。

まず、5ページは地域公共交通計画認定申請書で、公共交通計画のうち、地域公共交通確保維持事業に係る計画を申請することが記載されています。

6ページは、その公共交通計画本体に位置づけられている確保維持事業に係る位置づけや役割、必要性等の補助系統の記載箇所を示す一覧表となっております。7～16ページは該当する公共交通計画部分の抜粋となっております。

17ページからは、公共交通計画の別紙として、公共交通計画本体に位置づけられていない確保維持事業の補助系統に関する事項が記載されています。

「1. 目的と必要性」では、少子高齢化の加速や高齢者の単独世帯が増加している本市において、高齢者を始めとする交通弱者の方たちの買い物や通院などの交通手段の確保が必要不可欠であり、行政・交通事業者・地域による努力のみでは路線維持が厳しいことから、確保維持事業を活用してバスを運行していく旨を記載しております。

「2. 定量的な目標・効果」ですが、公共交通計画を参考に「デマンドバスの利用者数の増加」、「運行に係る行政負担額の現状程度の維持」、「収支率を現状値以上にすること」を目標としております。また、事業の効果といたしまして、マイカーなしでも通院や買い物が出来、快適に暮らせる地域をつくることで、高齢者等の外出が容易になり、社会参加の促進や、高齢者による交通事故の防止が期待されるとしています。

「3. 2. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体」については、公共交通計画を参考に記載しており、有田市だけでなく国・県、事業者、地域が協力して取り組んでいく事業について記載しています。

「4. 運行系統の概要及び運行予定者」に記載のある「表1」については、20ページにございます。内容は、現在有田川の主に北側を回るAコースと南側を回るBコースが

あり、停留所の回り方が合計13パターンございます。運行系統の列には、先ほども説明しましたが、すべての系統でJR箕島駅と接続していることを記載しており、補助基準に適合していることを表しています。

17ページにお戻りください。

「5. 確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額」については、例年有田市と運行事業者の協議の上で負担するとし、実際は運行事業者である中紀バス様のご負担となっていました。しかしながら、昨今の状況では今後の運行の継続が危ぶまれるということで、令和元年度より有田市としても補助のための予算を計上しております。補助内容を簡単にご説明しますと、国の補助要綱と同等の要件で、国庫補助額と同額を限度として補助金をお支払いする予定となっております。

「6. 2. の目標・硬貨の評価手法及び測定方法」については、数値指標によるモニタリング・評価等を実施していくこととしています。

次に18ページの「10. 地域の概要」についてですが、21ページの「表5」をお開きください。ここでは、直近の国勢調査人口を用いることになっておりますので、令和2年の国勢調査人口を使っています。有田市は市域全域が半島振興法に基づく半島振興対策実施地域となっておりますので、交通不便地域の人口は有田市全人口の26,538人が対象人口となります。

19ページにお戻りください。

「18. 会議の開催状況と主な議論」では、昨年度及び今回の会議の開催状況と議題を記載しています。

「19. 利用者等の意見の反映状況」では、これまで通り意見を聞く体制が整っていることを記載するとともに、必要に応じてアンケート調査等を行っていることを記載しています。

22ページ以降には、路線図・時刻表などを添付しています。

また、41ページからの右上に「参考資料」と記載されている資料は、直近3年度分の利用者数及び停留所別の乗降者数を付けさせていただいております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

(田代議長)

令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画について、委員の皆様方のご意見を頂戴したいと思いますが、何かございませんか。

(中井委員)

17ページの費用負担の記載について、先ほど質問した内容とも関係してきますが、民間事業者が赤字分を負担して運行していることは持続性の面でも問題があり、兼業している他の業種の利益を会社内で補填していることも考えられます。民間事業者は利益を出すことで雇用条件の改善や新車両の購入など、事業に対して投資ができるものと私は考えており、それが結果的に地域へ還元することにも繋がってくるものだと思います。そのため今後の負担のあり方についても検討していく必要があります、自分たちもその検討の中に参加させていただきたいと考えています。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

有田市としてもこの4月に路線再編・ダイヤ改正を行い、中学生の通学利用や移動困難者へのチケット配布などの取り組みで、利用者の増加による運賃収入を上げていくこと目指しております。

また、中紀バス様や和歌山運輸支局様とも相談しながら進めてきたいと考えています。

(田代議長)

他にご質問、ご意見等ございますか。

(川村委員)

参考資料の停留所別乗降者人数について、市役所や公民館などの公共施設の利用者が少ないように思えます。市民の方が公共施設に行く際の移動手段として、バスの利用を広く周知してもらいたいと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

利用者が市役所等へ訪れやすいように今回の路線再編・ダイヤ改正でバス停設置などを行いました。また、広報にも力を入れていきたいと思います。

(田代議長)

現在、市立病院の受診者で運転免許を返納している方には乗車券を配布するサービスも実施しています。また、移動困難者へのチケット配布を広報で周知もしています。有田市としてもどんどんPRをしていきたいと考えています。

他にご質問、ご意見等ございますか。

(大畑委員(城谷代理))

利用者数の目標が2万人ということで昨年度実績の約2倍の数字になっていますが、路線再編・ダイヤ改正後の利用者実績を把握している範囲で教えてください。

(事務局)

令和5年度では4月800名弱、5月約800名、令和6年度では4月約1800名、5月約2200名でした。増加している要因は主に中学生の通学利用になりますが、利用者数は倍増しています。

(田代議長)

今、説明があったように増加分のほとんどは中学生の通学利用になります。また、先ほどお伝えしたように、それ以外でも今年度から移動困難者にもチケット配布を行っており、

利用を促進しています。ただ、市民の方からの広報不足というご意見もいただいております。広報に力を入れていく中で、デマンドバスの活用方法を買い物や通院以外でも紹介していきたいと考えています。これまでだと箕島高校の生徒に実際に利用してもらい、それを広報の特集だけでなく、YouTube や Instagram で紹介しました。その他にも、今の時期は仁平寺の紫陽花が綺麗ですので、車で行けない方はデマンドバスで行けることを PR するなど、色々と利用促進につながる P R の方法があるように思えます。また、皆さんからも何かご意見、アイデアがありましたらぜひ頂戴できればと思います。

他にご質問、ご意見等ございますか。

～質問、意見なし～

(田代議長)

ご異議がないようですので、議案第 2 号「令和 7 年度地域内フィーダー系統確保維持計画について」は承認されました。

それでは、次に「その他」としまして、「地域公共交通における最近の動きについて」を和歌山運輸支局よりお願いいたします。

(中井委員)

資料の説明に入る前に、私が公共交通に対して持っている考えを皆さんと共有したいと思います。公共交通って何かというと、簡単に言えば誰でもお金を払えば利用できる移動手段のことです。ただ、移動するのは何か目的があるからで、根本的な移動の目的のために整備する必要があるので、それらと共によく検討する必要があると思います。

公共交通が不便だと感じるのは、マイカーの便利さに麻痺してしまって、過剰な依存をしてきたことに大きな要因があるように思います。まちの中心や商店街にマイカーで行くと渋滞したり、駐車場がないから不便に感じてしまう。これが進むと店舗が郊外に移り、結果的に町の中心がシャッター商店街になり、地域のお金が外に流れてしまうという悪循環が生まれているのではないかと思います。

また、商売だけでなく、病院や公的機関も郊外に移り、移動がマイカー前提になったまちでは、目的地が分散し、まちの中心が空洞化してしまうので、公共交通は移動需要を束ねることができなくなり、成り立たなくなってしまう。こういったことが繰り返されているんじゃないかなと思います。

現状、マイカーがないと生活できない状況が広がり、運転できない人がますます困ることになってしまいます。だから公共交通の確保や維持はどんなまちを作りたいかと一緒に考える必要があると思います。

では、資料の説明に移ります。地域の移動手段は社会活動の基盤ですが、人口減少やマイカー依存などでバスや鉄道が厳しい状況にあります。コロナでその傾向が加速しました。国としては、交通 DX や GX を進めつつ、官民間や事業者間の共創を促進し、多方面と連携して取り組んでいく考えです。

令和 5 年の交通政策審議会でまとめられた内容を元に、法律が改正され、国の予算も確保されています。交通計画はアップデートしながら実際に取り組んでいくことが大切です。

公共交通の再構築は急務で、国も予算を取って支援を進めています。共創・MaaS 実証プロジェクトでは、地域の様々な関係者と連携して移動需要を捉え、最初の運行費用を支援するものです。公共交通の本質は、移動需要を束ねることができ、自分で運転しなくていいことだと思います。

公共交通を活用してまちの中心を取り戻し、高齢者や学生、送迎に追われる人々の負担を減らすことが重要です。地域の移動需要を満たすために交通事業者と協力して、移動の目的を考え、共創プロジェクトを活用しながら進めていくことが必要です。

最後に、地域内リーダー系統に関する補助制度についての資料も参考にしてください。

(田代議長)

ありがとうございます。

説明のあった件について、何かご質問等ございませんか。

～質問、意見なし～

(田代議長)

他にご意見等なければ本日の内容は以上となります。

その他、全体を通して他にご意見、ご質問等ございませんか。

無いようでしたら、これで令和 6 年度第 1 回有田市地域公共交通会議を終了させていただきます。

皆様お忙しい中ご出席いただき、また本会の進行にご協力いただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

5. 閉会